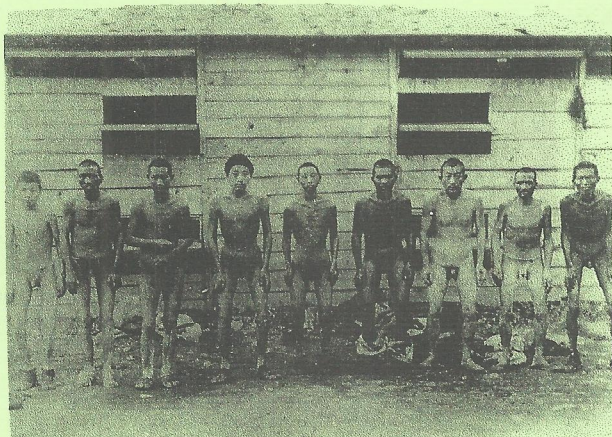


中国人強制連行・強制労働写真展

第2次大戦末期、日本政府・企業は労働力不足を補うために約3万9000人の中国人を日本国内へ強制連行し、鉱山、炭鉱、港湾など135カ所の事業所で強制労働に使役しました。彼らは過酷な労働・飢餓・監視員の暴力などに苦しめられ、終戦までに約6800人も死者を出しました。京都府でも与謝郡与謝野町の大江山ニッケル鉱山へ200人が強制連行され、12人の死者を出しています。

「中国人戦争被害者の要求を支える京都の会」は、大江山ニッケル鉱山へ強制連行された中国人生存者6人が1998年に国と企業の謝罪と賠償を求めて京都地裁へ提訴したことをきっかけに結成され、訴訟を支援するとともに、歴史の真実を語り継ぎ、真の日中友好関係を築くために努力を続けて来ました。今回、その18年間にわたる活動の中で収集した大江山をはじめ全国各地の強制連行・強制労働現場の写真や資料をパネルにして展示します。ぜひ多くの方に見ていただきたいと思います。



秋田県花岡鉱山へ強制連行された中国人
(アメリカ国立公文書館)



京都府大江山ニッケル鉱山へ強制連行された劉宗根さんが1998年に京都地裁へ提訴

期 間：6月29日(水)～7月3日(日)

時間 6月29日は13:00～17:00

6月30日～7月2日は9:30～17:00

7月 3日は9:30～16:30

場 所：ひとまち交流館京都展示場(下京区河原町正面バス停前)

参加費：無料

主 催：「中国人戦争被害者の要求を支える京都の会」事務局(090-8754-3152)
(TEL/FAX: 0771-24-6191、Eメール: CZT11457@nifty.com)

後援：日中友好協会京都府連合会

日本冶金工業は、大江山ニッケル鉱山への中国人強制連行被害者に謝罪し、賠償金を支払え

私たち「中国人戦争被害者の要求を支える京都の会」は、アジア太平洋戦争中、日本の侵略行為により中国の人々が被った多大な被害の実態について調査し、戦後補償と真の日中友好を実現するために活動を続けています。

京都府においては、1944～45年、日本冶金工業の経営する大江山ニッケル鉱山へ200人の中国人が強制連行され、過酷な労働と劣悪な生活環境の中で12人が死亡、多くの方が傷病に苦しみ、中国に残された家族も悲惨な生活に陥ったという歴史的事実があります。

1998年には中国人の生存者6人が日本政府と日本冶金工業を相手取り、謝罪と1人あたり2000万円の損害賠償を求めて京都地方裁判所に提訴しました。この訴訟は、第2審の大阪高裁で審理中、和解となり、日本冶金工業から原告に対して1人あたり350万円が支払われました。私たちは、企業から原告の方々に対して謝罪の言葉がなかったことは残念に思いますが、部分的とは言え、金銭の支払いがなされたことには一定の評価をしています。

しかし、大江山への被連行者200人のうちの194人には、未だに何の手当もなされていません。最近、中国では河南省を中心に約80人の被害者・遺族が「中国人強制連行被害劳工連誼会 日本冶金株式会社大江山鉱業所劳工分会」を結成し、日本政府及び日本冶金工業に対して謝罪と損害賠償を求める活動を始めました。その主な要求は下記のようなものです。



大江山への強制連行被害者と遺族

- (1) 日本冶金工業は、戦時中、中国人劳工200人に対して行った加害事実を率直に認め、謝罪すること。
- (2) 「大江山訴訟」の原告6人を除く194人に賠償金を支払うこと。
- (3) 中国人強制連行被害者・遺族と日本冶金工業が協力して、年限を定めて「大江山被害劳工記憶・責任基金」を設立し、記念碑設立、慰霊・追悼行事、歴史教育事業等を実施し、賠償金の一部をその費用に充てること。

私たちは、この要求は全く正当なものと考え、強く支持します。日本冶金工業は、上記の要求を真摯に受け止め、解決を図るべきです。

中国人戦争被害者の要求を支える京都の会 (TEL/FAX : 0771-24-6191)